

科目名		地方自治論特殊講義Ⅱ	
担当教員	江藤俊昭	科目区分	選択必修科目
開講区分	後期	単位数	2単位
曜日時限	木曜・1時限	開講年次	1年
到達目標	地方分権改革の動向を視野に入れ、自治体の意思決定を住民の側に接近させる戦略を構想することをこの講義の目的とする。具体的には、地方自治論特殊講義Ⅰの議論である地方議会の活性化と、住民投票を含めた住民参加を踏まえて、地方選挙制度、主権者教育の現在と問題を探る。		
授業概要	<p>新たな住民自治、議会改革の動向を踏まえて、それを作り出す上重要な地方選挙制度や主体（主権者教育）を確認する。その後、新たな地方自治の下での地域政策についても確認したい。</p> <p>地方自治論特殊講義Ⅰの議論である地方議会の活性化と、住民投票を含めた住民参加を踏まえて、地方選挙制度、主権者教育など動態的な分析を行うことになる。</p>		
授業計画			
回数	内容		
第1回	執行機関とその多元主義		
第2回	地方選挙制度の概要		
第3回	地方選挙制度改革の行方		
第4回	会派とマニフェスト		
第5回	地域民主主義を進める地域政党		
第6回	住民参加の変容と議会の役割Ⅰ（多様な住民参加）		
第7回	住民参加の変容と議会の役割Ⅱ（自治体内分権、自治体間連携）		
第8回	地域政策の変容と議会Ⅰ（地域活性化・地方版総合戦略）		
第9回	地域政策の変容と議会Ⅱ（地域包括ケア）		
第10回	地域政治の主体Ⅰ（主権者教育の現在）		
第11回	地域政治の主体Ⅱ（主権者教育と議会）		
第12回	地域民主主義の再生		
第13回	諸外国の地方自治・地方政治（上）		
第14回	諸外国の地方自治・地方政治（下）		
第15回	地域政治の理論		
準備学習等（課題・予習・復習・調査等）	事前に配布する資料を読み講義に参加する。『議員NAVI』に掲載している「新しい議員の教科書」を基にしている。		
評価方法・基準・講評の方法	報告とレジュメ（40点）、レポート提出（60点）によって評価する。講評は、個別にメールで対応する。		
テキスト・参考書	<p>テキスト：なし（ただし、事前に資料配布）。</p> <p>参考書：江藤俊昭，2012，『自治体議会学——議会改革の実践手法——』ぎょうせい。江藤俊昭，2016，『議会改革の第2ステージ』ぎょうせい。今井照，2017，『地方自治講義』筑摩書房。</p>		
前年度の授業をふまえた今年度の授業方針	授業アンケートによれば、授業での教材や講義、その後の討議について問題はなく（充実）、基本的に踏襲する。なお、講義途中でも要望があれば授業方針を変更する場合もある。		
学生へのメッセージ	事前配布資料を読むとともに、積極的に討議に参加してほしい。地方自治論特殊講義Ⅰの議論である地方議会の活性化と、住民投票を含めた住民参加を踏まえて、地方選挙制度、主権者教育の現在と問題を探るので、地方自治論特殊講義Ⅰを受講してもらいたい。		
授業に参考となるサイト	<p>総務省審議会・委員会</p> <p><a href="http://www.soumu.go.jp/menu_sosiki/singi/index.html">http://www.soumu.go.jp/menu_sosiki/singi/index.html</a></p>		
関連する画像			

その他・備考